

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

平成 28 年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

実施報告書

<p>プログラム名</p>	<p>ルーブリックを用いた教員支援システムの開発・運用プログラム</p>
<p>プログラムの特徴</p>	<p>Teach For Japan は既存の教職員採用とは異なるルート（当法人が独自に採用選抜した人材を教育委員会に常勤講師としてご紹介）で現場に立つ教職員の質が担保されるように、採用基準を確立し、現場に入るの事前研修と現場に入ってからからの指導力支援を提供している。</p> <div data-bbox="399 1041 1364 1624"> </div> <p>本プログラムでは、現場に入ってから教員のモチベーションが持続し、かつ成長し続けられるように、教員支援ルーブリックの開発を行う。</p>

平成 29 年 3 月

認定 NPO 法人 Teach For Japan

# プログラムの全体概要

## ■ 事業の実施背景 ■

### 子どもが抱えている課題

- ・ いじめ、社会経済格差と学力格差問題など子どもたちを取り巻く環境は厳しさを増す一方となっている。生まれた地域環境、家庭環境によって子どもたちの人生が左右されている。教育格差は、下記のフェーズ1→フェーズ2→フェーズ3という連鎖により、継続している。
    - フェーズ1：子どもの学力と親の世帯年収には、密接な関係がある。文部科学省が行った平成21年度全国学力・学習状況調査において、「世帯年収」と「子どもの学力」に相関性が見られると発表された。
    - フェーズ2：学力の低い高校と学力の高い高校とでは、大学進学率に大きな違いがある。都内の公立高校のうち、偏差値30台の学校では、大学進学率は全体の22.4%にとどまる一方、50台、60台、70台の高校では69.7%、76.8%、81.8%と大半の子どもが大学に進学する。（出典：入学時偏差値：進学研究会「進研Vもぎ」偏差値（合格率80%）、進学率：旺文社バスナビ「2012年度入試用高校受験案内」）
    - フェーズ3：最終学歴の違いは、年収に大きな影響を及ぼす。総務省による「家計簿から見たファミリーライフ」によると、教育支出は40歳代で最も多くなる。教育への支出が大きくなる時期に、大学・大学院卒の40歳代と高校卒の40歳代の年収の差は拡大しはじめ、男性の場合は178万円、女性の場合は、185万円の年収の開きがある。生涯賃金の差は、大学卒と高校卒を比較すると女性で約7200万円、男性で6000万円の差が生じている（平成23年賃金構造基本統計調査）。
- 結果として子ども世代の格差が大人世代の格差となり、自分の子どもに与えられる教育が限定的になる「貧困の連鎖」の問題が存在する。

### 上記の子ども達と日々向き合う教員が抱えている課題

- ・ 生まれた環境を問わず誰もが受けることができる公教育は上記の課題を解決する際に大きな役割を果たさなければいけない。「教育は人なり」という言葉があるように教育の質は人の質を超えることができず、教師の質は子どもの学力・学習態度に大きな影響を及ぼす。しかし、現状は、教師の倍率の低下、教師のメンタルヘルス悪化、多忙化など、教師の質・影響力が下がる可能性が大いにあることが課題となっている。教師を取り巻く環境が複雑化していく中、その中でも、塾などの追加学習機会・居場所が無い子どもたち、多様な課題を抱く子どもたちが通う困難校の教師の質の担保は重要になってくる。家庭のサポートを実施する一方で、家庭と同等の時間を子ども達と過ごしている教員や教育の質の向上が重要となる。

#### <実態調査について>

- ・ 本プロジェクト実施に先立って Teach For Japan は就学援助率が高い課題を抱える奈良市教育委員会の教職員を対象に調査を実施した。

- ▶ 学校現場における奈良市の現状の把握および課題の抽出の為に、奈良市公立小中学校の管理職（校長及び教頭をいう。以下同じ）6名・教諭6名、計12名へのインタビューを実施した。加えて、教育委員会の現在の課題認識を明らかにする為に、教育委員会事務局学校教育部教育支援課及び教育総務部教職員課のインタビューを実施した。また、指導主事の業務の実態把握の為に指導主事2名へのインタビューを実施した。
- ▶ 奈良市教育委員会を実施主体として、奈良市内小中学校の全教諭（校長、教頭、主幹教諭、養護教諭、栄養教諭及び非常勤講師を除く）に対し、平成26年12月15日（月）から同月19日（金）正午までの期間に、匿名によるウェブアンケートを実施した（有効回答数995）。アンケートでは、教諭の抱えている業務の負担の大きさや意義の有無、モチベーションの状況（現在の学校からの転出意向及び現在の学校におけるやりがいの有無）、指導主事・校長・教頭による現場改善の仕組みの現状、奈良市の教育施策の成果（採用後研修、少人数学級編制）等の質問項目についての調査を行った。
- ・ 今回の調査で明らかになった最も深刻な事実は、教育の現場を担う教員のモチベーションが非常に低下していることである。全教員の内、約七割が現在の業務について、やりがいを感じない・もしくは辛いと回答している。
  - ▶ モチベーション低下の背景には、成長実感が持てないという点が顕著に表れ、現在の評価制度・研修制度に対する不満に関する声が多く聞かれた。まず、評価制度については、インタビューでは「目標を立てるのも、達成状況を一次評価するのも本人なので、悪い評価になりようがない」「心身共に強い子供を育てる”等、スローガンのような目標を立てる教員も多く、**実質的に評価の意味をなしていない**」などの声が聞かれ、**現在の評価制度がそもそも機能していないという実態が明らかになった。**
  - ▶ 第二に、学校・教員に対する指導助言活動を担当している指導主事が機能していない、若しくは効果を感じられない課題がある。指導助言活動においては、各校を年に1~2回程度訪問し、校長との面談を行っている。担当教科の教員に対する指導・助言は、要請のあった学校に対し実施する形態を取り、直近の1年間では所管の小中学校69校の内36校で、延べ83回実施されている。但し、これは奈良市の小中学校教諭1,800名の約5%に留まる水準であり、必要十分な回数からは程遠い。なお、結果として、**教員アンケートで指導主事に対する評価について聞いた質問では、六割が指導主事の学校や教員に対する指導・助言に関わる職務を知らない、もしくは職務は知っているが効果を感じないと答え、指導主事をめぐる深刻な状況が明らかになった。**

以上のことから、教員が自分自身の能力を自己研鑽するために必要な評価基準や指導力改善フレームワークが存在しておらず、かつ指導主事という本来教員のサポートに力を発揮しないといけない存在が機能していないことがわかる。当然の事ながら、教員が常に指導力を改善する環境がなければ、教育の質は上がらず、最終的には子ども達の学力や学習意欲に影響を与えることになる。

## I 事業実施内容

### 教員支援ルーブリックの開発

- ・ ルーブリックとは、それぞれの能力レベルにおける基本的な評価基準を明示するものであり、教員に求められている能力のレベルを、下位到達レベルから、より洗練された上位の到達レベルへと漸次的に示すものである。
- ・ ルーブリックは、自分の教員としての能力を客観的に評価することが可能になるだけでなく、予め到達目標や評価の観点・基準を意識することが可能となることにも、大きな利点があると言える。到達目標を明確に設定し、目標の実現に向けて具体性をもった最適な取り組みを実施していくことが、主体的な学びとなり、結果として自己成長へと繋がる。また、一貫した基準があることにより、各教員の能力レベルを簡易に把握することができるようになり、それゆえに、教員への助言や支援の論点も明確になる。

### ルーブリックの構成

- ・ 教師の行動特性を約6つの特性に分類し、各特性の到達レベルを「レベル①Pre-Novice」「レベル②Novice」「レベル③Beginning Proficiency」「レベル④Advanced Proficiency」「レベル⑤Exemplary」の五段階で評価する。
- ・ 各レベル(項目)の内訳には、その項目の説明、行動例の描写、行動を実際に表している複数の動画やグッドプラクティス、次のレベルにいくための助言、参考資料が内包されている。

### ルーブリックの開発プロセス

#### 「委員会の構成」

#### ・ **プロトタイプ開発**

弊団体ネットワーク団体である Teach For All(<http://www.teachforall.org/en>)のツールである、Teaching As Leadership Comprehensive Rubric(以下、TAL ルーブリック)を活用し、上記インプットを基に日本の学校現場の実情にあったルーブリックプロトタイプを開発した。

※参考: Teach For Allは、多数の業界の専門家などの知見を活かし、目標設定力や自学自習力、問題解決力などの教員に必要とされるコンピテンシーを作成し、独自の教員養成方法を編み出している。

※フェローとは: TFJが採用・育成している教師のことで、全国の小学校・中学校で勤務している。フェローシッププログラムは二年間と定められている。

#### ・ **運用**

現場での導入が開始されると、プロジェクトチームは現場での運用をサポートする。定期的に面談や授業観察後のフィードバックを実施し、ルーブリックが教員の指導力改善や自己研鑽に生かされるようにサポート。試運用は連携している教育委員会(神奈川県川崎市、埼玉県戸田市、大阪府泉佐野市、奈良県奈良市、福岡県福岡市、福岡県北九州市、福岡県飯塚市、福岡県田川

市、福岡県川崎町、福岡県福智町)で実施。

### 「研修会（集合研修・個別研修）の実施」

ルーブリックを効果的に運用できるように、使用者とファシリテーター用の研修を実施した。なお、研修会には適宜特別検討委員会に参加しているアドバイザーや外部有識者なども講師・観察者として参加した。また、個別に先生方のメンタリング面談や授業のフィードバックを行い、ルーブリックが定着するようにサポート体制を構築した。

## II 成果

### 1. ルーブリックプロトタイプの開発

別添「ルーブリック」を参照。プロトタイプを完成させ、運用を開始した。

### 2. 運用

現場に派遣している各フェローに対して、月一回のメンタリング対面面談やオンライン面談を実施している。このメンタリング面談を通して、フェローの目標設定を明確にし、目標に対する進捗状況を確認していく。また、定期的に授業改善のフィードバックを実施し、フェローの学び続ける姿勢をサポートする。時には、現場の出来事の整理を一緒に行い、フェローがバーンアウトしないように課題解決をサポートしていった。

### 3. 研修会

年に4日間、赴任後研修を実施した。赴任後研修ではルーブリックを軸に内容を構築する。ニーズベースで研修を設計することで、フェローが現場ですぐに生かせる、実践的な研修を構築することを可能としている。内容については下記の通りである。

#### 【夏期研修会】

日程：2016年8月20日（土）、8月21日（日）

参加人数：23名

#### 事前準備

1. インタビュー (30分程度)	<8/20 生徒インパクトセッションの準備> 周囲の身近な大人で、「レジリエンスの高い大人」＝「困難な環境」（ご自身の定義で）で育ったにもかかわらず、ご自身が「子どもたちにこんなふうになってほしい」と思う姿を多面的に体現している人を見つけ、インタビューを行う。 ※ 例えば、「社会的・経済的・精神的に自立している」「レジリエンスが高い」「対人関係構築力が高い」「努力する能力が高い」「夢に向かって生きている、自分が心から望む人生を生きている」等、ご自身のビジョンに出てくるような要素を複数もちあわせている人、「自分が同じ環境に生まれたら、なか
----------------------	---

	<p>なかこんな風にはなれないだろうな」と思うような人を選ぶ。</p> <p>インタビュー内容：</p> <p>ご自身がその方について素晴らしいと思う点が育った過程について、もともとの素質・能力だけでなく、周囲の大人のどのようなはたらきかけや支援があったのかを知るための質問を試みる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 親・家族からはどのようなことを学んだか、与えてもらったか。どんなことで叱られ、また褒められたか。</li> <li>● 自分の人生に影響を与えた家族以外の大人は誰だったか。その人からはどのようなサポートを得たか。</li> <li>● 教師はどうだったか <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 小中高など段階別に分けて聞いてみてください。</li> <li>➢ よい影響を受けただけでなく、モチベーションを下げた教師がいたという場合についても聞いてみてください。</li> </ul> </li> </ul> <p>補足：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 条件に該当すれば、家族、友人、フェロー仲間など、どなたでもよい。</li> <li>● フェロー同士で同じ人に一緒にヒアリングしていただくのでも構わない。</li> <li>● 「もともと恵まれた環境に生まれたものの、中学生くらいまでのどこかのタイミングで困難に直面した人」でも可。その場合は、その人にとって何が困難を乗り越えるためのレジリエンスの源になったかを聞いてみる。</li> <li>● もし身近にそのような人がいない場合： <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「恵まれた環境」に育って、ご自身が「子どもたちにこんなふうになってほしい」と思う姿を多面的に体現している人がもし周囲にいましたら、その人に同じ質問を試みる。</li> <li>➢ それでも適当な人が見つからなければ、インターネットで「レジリエンスが高いと思われる有名人」の生い立ちなどをリサーチしてみる。</li> </ul> </li> </ul>
<p>2. ビデオ鑑賞 (15- 20 分程度)</p>	<p>&lt;8/20 生徒インパクトセッションの準備&gt;</p> <p>以下のビデオのいずれかを見た上で、質問について考えてみる。</p> <p><u>オプション① 社会経済的格差に興味のある人向け</u></p> <p>「自由を得る手段としての教育」 (約 12 分)</p> <p>※ Teach for America のあるフェローの教室のビデオです</p> <p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=EWU2QGrkMOU&amp;feature=em-share_video_us">https://www.youtube.com/watch?v=EWU2QGrkMOU&amp;feature=em-share_video_us</a></p> <p><u>er</u></p> <p>★質問</p> <p>この教室で起きたと思われる生徒の変化は、一言でいうとどのようなものだと</p>

	<p>思うか。また、その変化を促すために、この教師は生徒たちに対し、どのようなマインドセットで接し、またどのような働きかけを教室の中で日々してきたと思うか。</p> <p>オプション② 特別支援やユニバーサルな教育に興味のある人向け</p> <p>「障害と豊かな人生」 (約 20 分)</p> <p>(アショカ・フェローの講演ビデオで、2 つに分かれている)</p> <p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=aAfURade-FI&amp;index=1&amp;list=PLeq0LUj_FV7p_NvXfIGqYpwq3Hzo8qiZe">https://www.youtube.com/watch?v=aAfURade-FI&amp;index=1&amp;list=PLeq0LUj_FV7p_NvXfIGqYpwq3Hzo8qiZe</a></p> <p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=vY9yI400_Zc&amp;index=2&amp;list=PLeq0LUj_FV7p_NvXfIGqYpwq3Hzo8qiZe">https://www.youtube.com/watch?v=vY9yI400_Zc&amp;index=2&amp;list=PLeq0LUj_FV7p_NvXfIGqYpwq3Hzo8qiZe</a></p> <p>★質問</p> <p>この講演の中で、「フル・ライフ」という言葉が出てくる。ご自身にとって、「フル・ライフ」とはどのようなもの/どのような意味をもつか。ご自身の教室の子どもたちが「フル・ライフ」を得るために、教師としてご自身ができることは何だと思うか。</p>
3. リーディング (英語フェローのみ)	<p>&lt;8/20 の峰松先生のワークショップの事前課題&gt;</p> <p>Designing Language Courses - Chapter 1</p>

## スケジュール

8/20 (土)

時間帯	プログラム	内容・特記事項
9:30-10:30	チェックイン・研修のゴール・1学期のリフレクション	
10:30-12:00	生徒インパクト①	
12:00-13:00	昼食	
13:00-15:30	校種別セッション①	<p>小学校：「問う力」を育てる社会科 (岩辺泰吏先生)</p> <p>中学校：Designing Language Courses～9ステップで学ぶ授業設計 (峰松愛子先生)</p>
15:30-17:30	生徒インパクト②	

17:30-18:00	世界平和ゲーム TED トーク上映 (見たことがない人のみ)	8/21 午前のセッションに向けた準備となります
18:00-19:00	夕食	
19:00-20:00	実践紹介&ナレッジ共有① (自由参加)	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修からのラーニング：Social Emotional Learning (池田、山本、松尾)</li> <li>海外研修からのラーニング：芸術教育 (チェルシー)</li> </ul>

8/21 (日)

時間帯	プログラム	内容・特記事項
8:15-8:45	実践紹介&ナレッジ共有② (自由参加) ※ 2つのセッションの選択制になります	<ul style="list-style-type: none"> <li>応用行動分析 (木村-2期) @センター棟 104</li> <li>表現教育 (磯、増永) @センター棟 306</li> </ul>
9:00-11:00	世界平和ゲーム ※ 基本的には必須参加ですが、この時間帯などに外部講師の先生方やスタッフに個別相談の希望があれば受け付けます。	<p>9:00-10:00 谷口 真里佳さんによるプレゼンテーション</p> <p>10:00-10:15 休憩</p> <p>10:15-11:00 田中フェローによるミニワークショップ</p>
11:00-12:00	生徒インパクト③	前日までのセッションの予備 内容が消化できた場合は外部講師の先生方やフェロー同士で交流いただく時間となります
12:00-13:00	昼食	
13:00-15:30	校種別セッション②	<p>小学校：理解を深める算数の指導法 (岩辺泰吏先生、市川良先生) @センター棟 306</p> <p>中学校：英語教育におけるユニバーサルデザイン (村上加代子先生) @センター棟 104</p>
15:30-17:00	2 学期のプランニング @センター棟 306	
17:00-18:00	チェックアウト	

## 【冬期研修会】

日時：2016年12月23日、12月24日

参加人数：18名

事前準備：なし

### スケジュール

12月23日

	プログラム	目的
10:00-10:10	イントロダクション・チェック イン	<ul style="list-style-type: none"><li>参加者がお互いやスタッフを知り、リラックスした「学びやすい」状態をつくる</li><li>研修時のベーシックなルールについて知る</li></ul>
10:10-10:40	夏季研修&2 学期リフレクシ ョン- TALに基づく	<ul style="list-style-type: none"><li>フェロシッププログラムと TAL (Teaching As Leadership) の位置づけについて理解する</li><li>グループで TAL に沿った振り返りを行う</li></ul>
10:45-12:15	海外教育理解 イェナプラン (久保礼子先生)	<ul style="list-style-type: none"><li>海外で効果的な教育についての理解を深め、教室で応用する</li><li>久保先生ご自身が元高校教員ということで、フェローのロールモデルとしてのあり方</li><li>道の拓き方を理解する</li></ul>
12:15-13:00	ランチ	
13:00-14:45	授業・教材のユニバーサルデザ イン (村上加代子先生)	<ul style="list-style-type: none"><li>発達障害や学習困難を抱えるお子さんたちを想定し、授業や教材で工夫できるポイントについて知る</li><li>実際に工夫されたワークシートや教具の共有を通して、教室で使える実践的なアイデアを得る</li></ul>
14:45-16:00	教科別セッション	<ul style="list-style-type: none"><li>英語：村上加代子先生との実践 Q&amp;A</li><li>小学校：Teach For All セッション-</li></ul>

		Classroom Basics (Wait Time、100%①)
16:00-16:15	☆休憩☆	
16:15-17:15	実践報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関口フェロー (2 年生) : 自己肯定感を高める実践</li> <li>・ 田中フェロー (4 年生) : (テーマ検討中)</li> <li>・ 幸田フェロー&amp;増永フェロー (5 年生) : 教室をつなぐー奈良と福岡を Skype でつないでの理科授業</li> <li>・ 金澤フェロー (6 年生) 山岡フェロー (中 1) : 生徒に届く活動設計・教材作成の工夫</li> </ul>
17:15-17:45	Day1 リフレクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日の学びを振り返る</li> <li>・ TAL とのつながりに落とし込む</li> </ul>
17:45-18:00	解散	

12 月 24 日

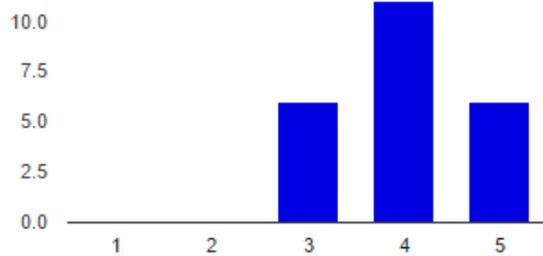
	内容	目的
10:00-10:15	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修目的の確認</li> <li>・ 昨日の学びの振り返りー Teaching As Leadership ルーブリックと自分なりの重点項目</li> </ul>
10:15-11:45	Teach For All Student Survey ・ 効果測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の専門性とは何か、についての提案を解釈する</li> <li>・ 4 つの力・7C というフレームワークを理解する</li> <li>・ 子ども</li> </ul>
11:45-12:30	ランチ	

12:30-13:30	フェロー実践紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平山フェロー（小3）：毎日コツコツ！（学力向上の実践）</li> <li>・佐藤瞬フェロー（小5）：生徒との関係構築～安定感のあるクラス経営</li> <li>・池上フェロー（小4）：心を育む道德の授業</li> <li>・松尾啓司フェロー（小4）：教師対象・LGBT 研修報告</li> </ul>
13:30-13:45	☆休憩☆	
13:45-16:15	期別セッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3期生：アラムナイインパクトセッション - 後輩フェローに何を引き継ぐか（課題意識、ケース）</li> <li>・4期生：Teach For All セッション - Classroom Basics（100%②）、Clear Direction）</li> </ul>
16:15-17:00	Day2 リフレクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学びを振り返る</li> <li>・TAL とのつながりに落とし込む</li> <li>・3学期・3年目へのコミットメント</li> </ul>

## サーベイ結果

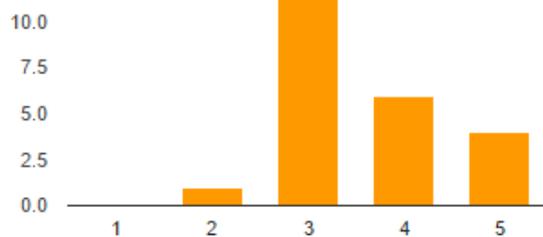
### 夏期研修

#### 3. 今回の夏季研修の全体的な満足度



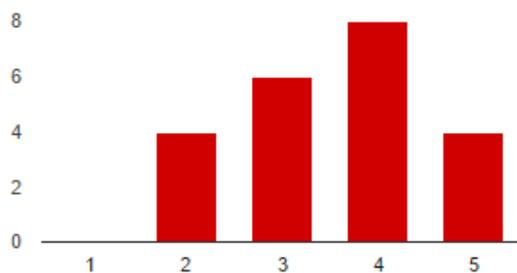
大いに不満:	1	0	0%
	2	0	0%
	3	6	26.1%
	4	11	47.8%
とても満足:	5	6	26.1%

#### 5. セッション別満足度



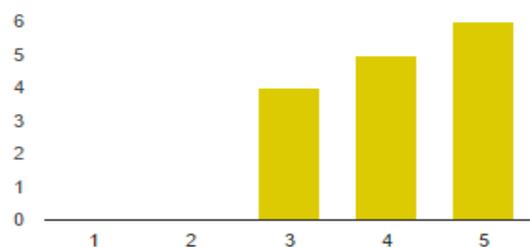
大いに不満:	1	0	0%
	2	1	4.3%
	3	12	52.2%
	4	6	26.1%
とても満足:	5	4	17.4%

#### b. 小中共通：世界平和ゲーム（8/21）



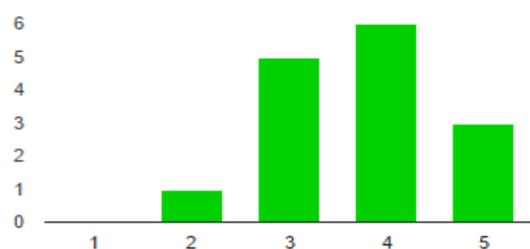
大いに不満:	1	0	0%
	2	4	18.2%
	3	6	27.3%
	4	8	36.4%
とても満足:	5	4	18.2%

c. 小学校社会 (8/20)



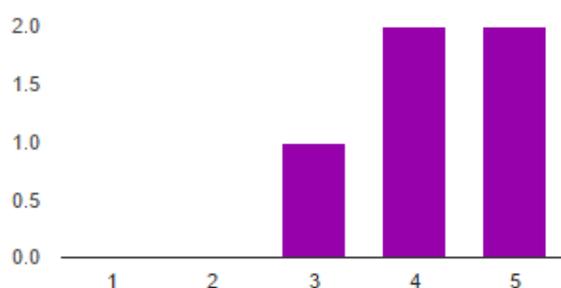
大いに不満:	1	0	0%
	2	0	0%
	3	4	26.7%
	4	5	33.3%
とても満足:	5	6	40%

d. 小学校算数 (8/21)



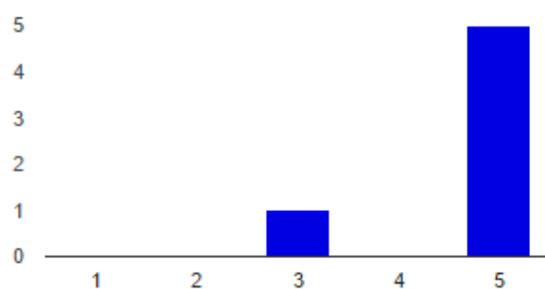
大いに不満:	1	0	0%
	2	1	6.7%
	3	5	33.3%
	4	6	40%
とても満足:	5	3	20%

e. 中学英語 峰松先生による授業設計セッション (8/20)



大いに不満:	1	0	0%
	2	0	0%
	3	1	20%
	4	2	40%
とても満足:	5	2	40%

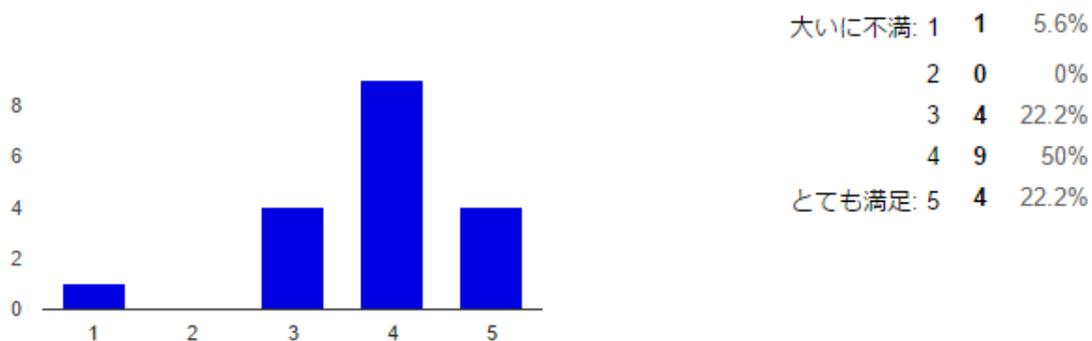
f. 中学英語 村上先生による「英語の読み書き習得へのステップ」 (8/21)



大いに不満:	1	0	0%
	2	0	0%
	3	1	16.7%
	4	0	0%
とても満足:	5	5	83.3%

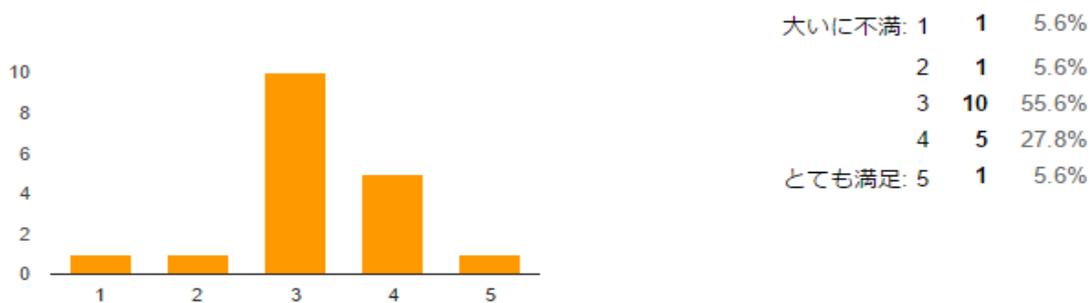
## 冬期研修

### 3. 今回の冬季研修の全体的な満足度

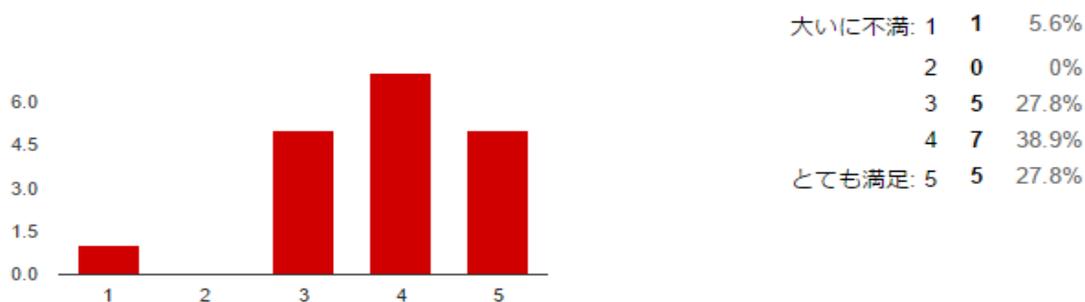


※一名評価基準を間違えており、「5」を「1」と回答。集計システムで元データを操作できないため、そのまま掲載

### 5. セッション別満足度

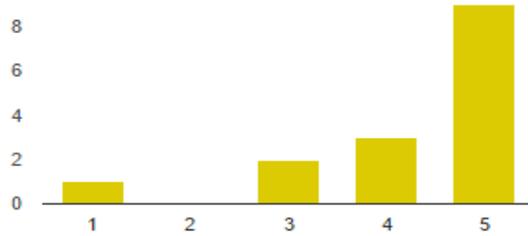


### b. 小中共通：実践紹介（12/23・24）



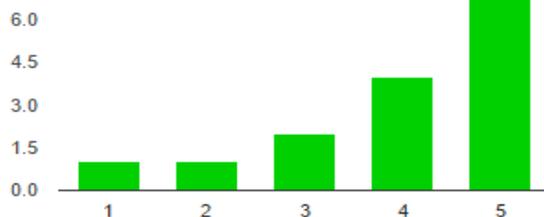
※（5. b. 共通）一名評価基準を間違えており、「5」を「1」と回答。集計システムで元データを操作できないため、そのまま掲載

c. 小中共通：イエナプラン（久保礼子先生：12/23）



大いに不満:	1	6.7%
	2	0%
	3	13.3%
	4	20%
とても満足:	5	60%

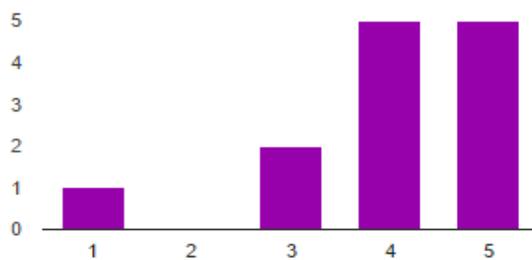
d. 小中共通：英語につまずく子どもへの指導と配慮（村上加代子先生：12/23）



大いに不満:	1	6.7%
	2	6.7%
	3	13.3%
	4	26.7%
とても満足:	5	46.7%

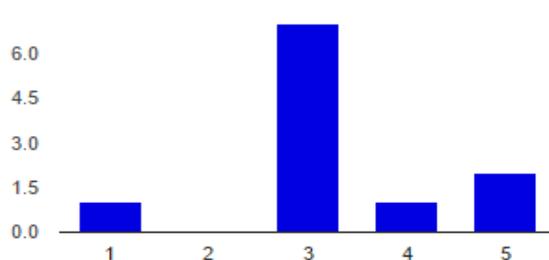
※（c. d. 共通）一名評価基準を間違えており、「5」を「1」と回答。集計システムで元データを操作できないため、そのまま掲載

e. 小中英語：村上先生Q&A（村上加代子先生：12/23）



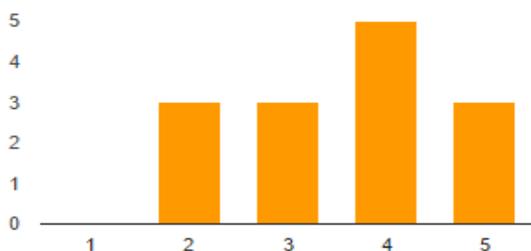
大いに不満:	1	7.7%
	2	0%
	3	15.4%
	4	38.5%
とても満足:	5	38.5%

f. 小学校：Teach For All - Classroom Basics（Wait Time：12/23）



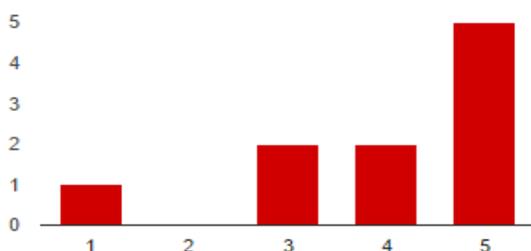
大いに不満:	1	9.1%
	2	0%
	3	63.6%
	4	9.1%
とても満足:	5	18.2%

**g. 小中共通：子どもに育てたい力 - 効果測定・TFAll Student Survey (12/24)**



大いに不満:	1	0	0%
	2	3	21.4%
	3	3	21.4%
	4	5	35.7%
とても満足:	5	3	21.4%

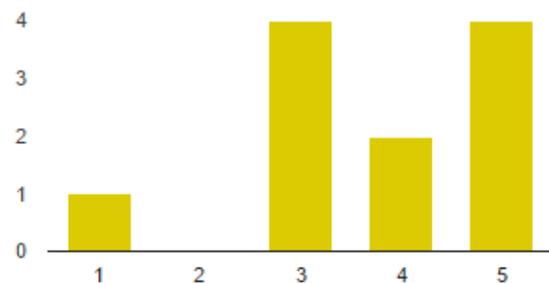
**h. 3期生：アラムナイ・インパクトセッション (12/24)**



大いに不満:	1	1	10%
	2	0	0%
	3	2	20%
	4	2	20%
とても満足:	5	5	50%

※ (e. f. h. 共通) 一名評価基準を間違えており、「5」を「1」と回答。(g.)は「4」を「2」として回答。集計システムで元データを操作できないため、そのまま掲載

**i. 4期生：Teach For All - Classroom Basics (Clear Direction・100%：12/24)**



大いに不満:	1	1	9.1%
	2	0	0%
	3	4	36.4%
	4	2	18.2%
とても満足:	5	4	36.4%

※一名評価基準を間違えており、「5」を「1」と回答。集計システムで元データを操作できないため、そのまま掲載

**III 連携による研修についての考察**

当法人は先生の派遣先の教育委員会との連携を推進している。該当教育委員会の指導主事や教育センターとの連携が強い教育委員会ほど、事案の対応スピードと質を高めることができる。今後、赴任前研修に教育センターの担当者や指導主事に参加してもらえる仕組みを構築していく必要があると考える。

赴任後研修についても教育委員会との連携を進めている。一つが研修の構築についてである。現

場のニーズのヒアリングを実施し、研修を設計しており、教育委員会からの密な情報連携があるからこそ、ニーズに則した研修開発が可能となっている。また、現場の先生方にもご参加頂く事があり、現場の先生方からは内容については高い評価を頂いている。さらに、当法人のフェローが教育センターが開催している研修にも参加させて頂いており、当法人が開発しきれていないコンテンツの受講はとても意義深いとフェローからは聞いている。今後、互いの研修を受講しあい、ナレッジを共有することで、さらに連携を深めていきたいと考えている。

**【問い合わせ先】**

認定 NPO 法人 Teach For Japan

東京都港区新橋 6-18-3 中村ビル 4 階

松田悠介/yusuke.matsuda@teachforjapan.org